

愛知県美術館のお宝は、なんといってもグスタフ・クリムトの《人生は戦いなり（黄金の騎士）》です。ということで、ウィーンに生まれてウィーンで活躍したクリムトにゆかりの地を何回かのシリーズに分けてご案内しましょう。

クリムトは父エルンストと母アンナの2番目の子供として1862年にウィーン郊外で生まれました。クリムト関係の本やカタログの年譜を見ると、生まれた所は「リンツァー通り247番地」と記されています。



↑かつての生家



↑生家にかつてつけられていたプレート

今でもこの通りや番地は存在するのか、存在するとしたら今どうなっているのかを確かめてきました。

まずはインターネットの地図検索で ” linzerstrasse 247 wien ” と入力すると、あっという間に場所が特定できます。今でもその通りや番地が存在していることがパソコンで確認できました。最寄り駅は地下鉄のウンター・ザンクトファイトだということもわかります。市街地からは U4 (地下鉄 4 号線) のヒュッテルドルフ方面行きに乗り、有名なシェーンブルン宮殿のあるシェーンブルン駅の次の駅になります。カールスプラッツ駅からは 7 番目です。ここまでわかればあとは実際に行ってみるだけです。



↑ウンター・ザンクトファイト駅

ウンター・ザンクトファイト駅を出たら左に向かいます。地下鉄と平行して流れる大きな側溝のような川を渡り、電車の高架を二つくぐり、少し行くとリンツァー通りと交差します。一昔前の写真を見るとリンツァー通りには路面電車が走っており、今でも路面電車が通る広い通りです。さて、交差点を左折して少し行くと、ありました！ 予想していた通り、壁に生誕地を示すプレートが付いていました。

↑リンツァー通り、オレンジの建物がクリムト生誕の地

↑「リンツァー通り 247 番地」の表示と生誕地を示すプレート



↑プレートの中央にはGVSTAV KLIMTの名前が彫られ、下の部分には「ウィーン分離派の協 同設立者の画家グスタフ・クリムトが1862年7月14日に生まれた家が此の地に建っていた」と記されています。

名前の文字も地の装飾もクリムトっぽいでしょ。単に活字を並べただけの素っ気ないかつてのプレートとは一味違いますね。クリムトの名前はサインをもとにしたもので、地の渦巻き模様や鳥のモチーフは〈ストックレー・フリーズ〉から採ったのでしょうか。

生家は1968年に取り壊され、現在は別の建物が建っていますが、プレートがクリムトの生誕の地であることを示しています。しばらくあたりをうろうろしてみました。そこに暮らしている人たちはみな、このプレートを見ることもなく通り過ぎていきます。よほど物好きな人くらいしかここを訪れることはないのでしょうか。

(HF)

*モノクロ画像出典：クリスティアン・M・ネベハイ『グスタフ・クリムト ドキュメンテーション』ウィーン、1969年。